「ポストコロナ時代の企業経営」

第７回「SX（サスティナビリティ・トランスフォーメーション）の推進」

最近の台風や洪水、竜巻、熱波、山火事、豪雪など自然災害の頻発や大型化、北極＆南極の氷山の減少、動植物の生態系の変化などなど地球環境の持続可能性が懸念されています。また、新型コロナのパンデミック化やロシアのウクライナ侵攻による社会や経済の混乱、IT など技術革新の変化スピードが急で企業の持続可能性も見通せない状況となっています。

この状況下で最近**サステナブル（Sustainable：持続可能性）**とか Sustainable Transformation という言葉が頻繁にメディアに取り上げられるようになりました。今回は旬のテーマである SX について取り上げたいと思います。

１．SX とは

SX は、Sustainable Transformation の略で、2020 年 8 月に経済産業省が発表した報告書「サステナブルな企業価値創造に向けた対話の実質化検討会中間取りまとめ～サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）の実現に向けて～」の中で初めて登場した言葉で、以下のように定義されています。

「企業のサステナビリティ（企業の稼ぐ力の持続性）と社会のサステナビリティ（将来的な社会の姿や持続可能性）を同期化させる経営の対話、エンゲージメントを行う経営の在り方や対話の在り方」

換言すれば、投資家などステークホルダーを巻き込み、「企業の持続性」と「社会課題の解決」の両立を図り、長期的な持続可能性を重視した経営、端的に言えば「地球（環境）よし」「社会よし」「経済（企業）よし」の「**三方よしの経営**」といえます。もっと言えば「**ステークホルダー経営**」と考えても良いのではないかと思います。

２．SX と社会課題

社会課題というと、最近はＳＤＧｓ（注 1）とかＥＳＧ（注 2）という言葉が出てきますが、その中身は多岐に亘り複雑です。社会課題を以下の 3 項目に分けて考えると分かり易いのではないでしょうか。

① 地球・環境問題	・地球温暖化（気候変動）による農産物被害や人的被害問題　・渇水問題や排水による水質汚濁問題　・海洋資源や陸上資源の利活用と廃棄物問題　・農地開発や森林破壊による生態系問題　など
② 社会問題	・強制労働や児童労働、虐待など人権問題　・開発途上国の飢餓・貧困や衛生・医療、教育などの問題　・ジェンダー（性）や人種による差別問題　・多様な働き方の許容問題　など
③ 経済問題	・「株主重視経営」→「ステークホルダー重視経営」への転換 ・サーキュラーエコノミー（循環経済）の推進　・ESG 投資の推進

	・企業統治改革　など

今までは、ともすると環境問題や社会問題は「利益に繋がらない」「コスト増加になる」など後ろ向きに考えられてきました。しかし世界は既に多様な社会課題の解決のために動き出しており、「投資額は何百兆円･･･」など計り知れない資金が動くことが見込まれています。また、課題解決に取り組む企業が投資家や社会から評価される時代になりつつあること（ESG 投資の高まり）を理解する必要があります。世界の多くの人々が SX に積極的に取り組む企業を歓迎し、支援しているのです。

上記の３つの諸問題の重要度は、**①の地球・環境問題がベース**にあり、その上に②の社会問題、更にその上に③の経済問題が位置付けられます。何故なら地球・環境が破壊されたら社会も経済も成り立たない、また社会あっての経済だからです。今や、地球・環境破壊の原因となっている地球温暖化を止めるための「**カーボンゼロ社会、ネットゼロ社会の実現**」は、世界の最重要かつ喫緊の課題となりました。そこで次回は、SX に中小企業が如何に取り組むべきか、について考察したいと思います。

（次回に続く）

（注 1）ＳＤＧｓ：Sustainable　Developments　Goals の略で、国連の 2030 年に向けての「持続可能な開発目標」を指します。17 の目標、189 の達成基準、232 の指標が定められており、17 の目標は貧困、飢餓、保健、教育、ジェンダー、水・衛生、エネルギー、経済成長と雇用、インフラ・産業化・イノベーション、不平等、持続可能な都市、持続可能な消費と生産、気候変動、海洋資源、陸上資源、平和、常套手段、などが定められています。

（注 2）ESG：環境（Environment）、社会　（Social）、ガバナンス（Governance）の英語の頭文字の略。投資家が企業を評価する際に、従来のような財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスの視点で企業の持続可能性を評価して投資を決定するようになり、「ESG 投資」が年々増加しています。